

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3056680号

(45) 発行日 平成11年(1999) 2月26日

(24) 登録日 平成10年(1998) 12月2日

(51) Int.Cl.⁸

識別記号

F I

G 0 1 N 1/28

G 0 1 N 1/28

U

G 0 2 B 21/34

G 0 2 B 21/34

評価書の請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願平10-7119

(73) 実用新案権者 593158548

片岡 久男

東京都新宿区早稲田鶴巻町556

(22) 出願日 平成10年(1998) 8月11日

(72) 考案者 片岡 久男

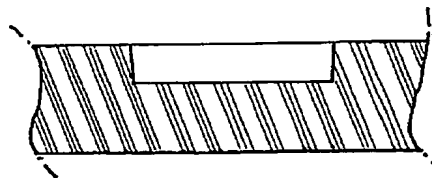
東京都新宿区早稲田鶴巻町556番地

(54) 【考案の名称】 凹部を付した成形品プレパラート

(57) 【要約】

【課題】 本考案は、プレパラートを使用して、顕微鏡観察に際しての、手間を省き、簡単に且つ安価に提供出来る様にする。

【解決手段】 本考案は、中央部にへこみがある形で、透明樹脂を成形する事で、試料の盛り上り、流れ出しを防ぎ、安価で容易にカバーガラス無しでも、顕微鏡観察が出来る様にした。



(2)

実登3056680

1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 プレバートの中央部に、へこみを施すことで試料の盛り上り及び流出を防ぎ、且つ光の透視を良くする事の出来る透明樹脂成形品のプレバート

【図面の簡単な説明】

*

*【図1】本考案の成形品プレバートの、形態を示す正面図である。

【図2】本プレバートの、形態を示す側面図である。

【図3】一部断面の凹部拡大図である。

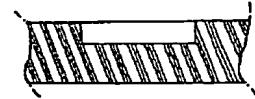
【図1】



【図2】



【図3】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、細菌、酵素等微生物の顕微鏡観察に使用するプレパラートに関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

一般的にガラスの薄板を使用している為、試料液を滴下した場合、其の表面張力により、丸く盛り上る。其の上にカバーガラスを押付けて、顕微鏡観察をしている。又ガラスの薄板のため、割れ易い欠点があった。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

この考案は、これらの欠点を除去し、使用者に負担をかけないで、観察出来る様にした、プレパラートに関する考案である。

【0004】**【課題を解決する為の手段】**

本考案では、プレパラートの中央部に、へこみを施した形を、透明樹脂で成形することにより、試料を凹部に滴下した場合、水の付着力のため、其の接触角は、鋭角となり、試料の盛り上りを防ぐ、又試料の流れ出しを防ぎ、カバーガラス無しでも、観察を可能にしたものである。

【0005】**【考案実施の形態】**

プレパラートの成形金型に於て、プレパラートの中央部に、へこみを付した形とし、透明樹脂で成形することで、試料の盛り上り、及流れ出しを防止する、プレパラートを構成するものである

【0006】**【実施例】**

以下添付図3により実施例を説明する、中央部に厚さのほぼ、3分の1、程度のへこみを付けたプレパラートは、中央部に滴下された液の付着力に依り、へこ

みの壁面と液体との接触角は鋭角となる事で、液の盛り上りが防止され、又流れ出しも防止出来る

【0007】

【考案の効果】

この様に本考案は、樹脂成形することで、安価で、軽く、割れ難く試料の流れ出し、盛り上り現象を防止出来ることで、カバーガラス無しでも観察出来る等、実用効果が大きいものである。

【0008】